



彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和七年十二月七日

◇宮司の柴田です。 境内神橋の紅葉や境内

桜の葉が、見事に、深い紅に染まりました。



折節おりふし（季節のことです）の移ろいは、仁義じんぎで成り立っているということをつくづくと感じさせられる昨今です。 こんなに綺麗な深紅の紅葉が、散らないでほしい、この気持ちは、「仁」という優しい気持ち、思いやりです。 しかしながら、この紅葉も境内一帯の桜の葉も、次なる季節の冬の為に、潔く、葉を散らすのです。
自らを犠牲にして葉を散らす、まさしく、「義みずか」

なのであります。

◇さて、いよいよ暮れ果ててまいりました。

今年も余すところ、あと僅かです。 今年一年、

いろいろな事があり、葦船あしふねにのせて流してしま

いたいいこともありました。 松下幸之助さん

は、「いいことはおかげ様、悪いことは身からで

たさび」と仰っています。 私も見習って、悪

い出来事や困ったことは、生活の糧にできるよ

う、前向きにとめてきたつもりです。 不安

という気持は、心の健全な働きなのですから。

さらに、いい出来事は、明日への活力にしてく

きました。 永年にわたって、宇宙摂理を研究さ

れた佐治晴夫さんは、「あなたのこれまでは、あ

「これまで」が大成功でも、「これからが大失敗

だと、「これまで」の大成功も色褪あせてしまうの

だそうです。 そういった意味では、「これか

ら」の二十四日間が、これまでの今年を決める

わけですから、とても大事になってきます。

気ぜわしく慌ただしい年の瀬ですが、今一度、

自分を見つめ直さなければなりません。 今

ある命に「KⅡ感謝」し、「KⅡ謙虚」に、前向

きに「KⅡ希望」を見失わず、何事も創意「K

Ⅱ工夫」をする暮らし、四Kが大切です。 そ

して、紅葉が冬のために潔く、自ら葉を散らす

「RⅡ利他、思いやり」の心を忘れずに、「OⅡ

落ち着いて、「YⅡゆとり」をもって、生活を

する、「ROY」の敬神生活を心がけたいもので

す。

◇新年になりますと、干支えとにまつわる「色紙」

を浄書じようしょして、お配りしています。 午年うまとしの平

成二十六年から始めたので、干支が、一巡した

ことになりました。 ちなみに、左の写真が、はじ

めて浄書した色紙です。



さて、何と読むでしょうか。馬の漢字を左右引っくり返して書いた字です。実は、「ひだりうま」と読みます。乗馬は、馬の左から乗ると絶対に倒れないという言い伝えがあります。そのことが、「左うちわ」、「右に出る者がいない」に通じ、縁起が良いとされるのです。馬は、人が引かなければなりません、この「左馬」は、馬が運であるとか客を引っ張ってくる、「千客万来」、「開運招福」を象徴する字なのです。

◇今年の「書初め色紙」、迎春の準備の合間に色紙の構想を練りつつ過ごしてまいります。

乞う御期待くださいませ。この一年、宮司

プレスの御愛読、心から感謝申し上げます。

一号も遅れることなく「月刊」が継続できたのも皆様のおかげです。記事にする内容、

いわゆる「ネタ（種を逆読みした隠語で

す）」も涸渇し、既刊号の内容をコピペ（引用

して貼り付けることです）している状況です。

次号からは、猛省し、新しい内容の記事を認

めることができるようつとめてまいります。

皆様、御家族おそろいで良き年をお迎えになられますことを、心からお祈り申し上げます。

◇十一月祭典行事報告

▼月次祭 *十一月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭 *十一月一日

▼明治祭 *十一月三日

▼龍宮神社例祭 *十一月三日



▼新嘗祭 *十一月二十三日



▼六連島八幡宮新嘗祭



◇十一月の宮司動静

▼神社関係団体

◆早起会参拝 *十一月一日

◆維蘇志会役員会 *十一月七日

▼神社庁関係

◆野田神社例祭参列 *十一月七日

◆支部神宮大麻頒布始祭 *十一月八日

◆神社庁正副庁長会議 *十一月二十五日

▼自治会、学校関係、人権相談員、その他

◆西山小四年生総合学習発表会

*十一月十五日

◆山中町自治会講演 *十一月十六日



◆小熊野神社(宮司実家神社)例祭献幣使奉仕 *十一月十八日



◆迫町自治会役員会 *十一月十九日

◆宮崎家若山家結婚奉告祭

*十一月二十一日

※宮司実家神社小熊野神社にて奉仕

◆人権相談 *十一月二十六日

◆人権擁護委員研修会、西山小学校運営協議会委員会 *十一月二十七日

◆彦島地区防災訓練 *十一月二十九日

◆迫町自治会ウオーク *十一月三十日



▼教誨活動(美祢社会復帰促進センター)

◆集日教誨(女子) *十一月十日

◆集日教誨(男子) *十一月十日